

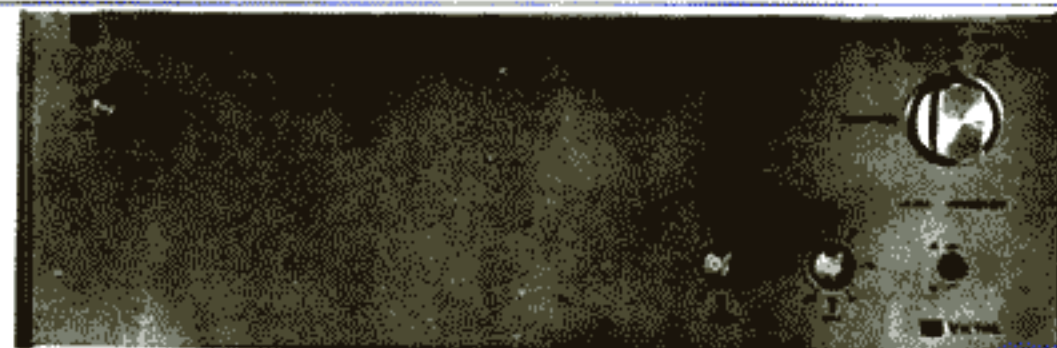


# VICTOR 4 CHANNEL SYSTEM COMPONENT SERIES



CD-4 SYSTEM DISC DEMODULATOR

model **CD4-1**



取扱説明書

## — これが CD-4 です —

本機をお買上げいただきありがとうございました。いよいよこれでレコードによる4チャンネル再生の本格派 CD-4 システムをお楽しみいただけるわけです。

日本ビクターが、世界に先がけて開発いたしました。この CD-4 方式により、かつてモノラルからステレオへと音の革命がなされたように、今また1枚のレコードの1本の溝から完全に分離された4チャンネルソースの再生が可能になったのです。

音質、音場定位感、セパレーションなど他の類似4チャンネル方式では追従できない優位性をもっています。

ご使用まえにお手数でもこの取扱説明書をごらんいただき、正しい操作で末長くご愛用くださるようお願いいたします。

## 目 次

	ページ
CD4-1 型 特長、CD4-1 型 規格 .....	2
フロントパネル部説明 .....	3
接続端子部（後部パネル部）説明 .....	4
接 続 例 .....	5
例 A .....	6
" B .....	7
" C .....	8
" D .....	9
操作・調整 .....	10
使用上のご注意 .....	11
CD-4 システムについて .....	12
スピーカーパフルの配置について .....	13
おすすめしたいビクター製品 .....	14

CD-4 レコードの取扱いについて特にご注意が必要です。  
この取扱説明書の「使用上のご注意」(11ページ)および CD-4 レコードの注意事項をよくごらんください。

## CD4-1 特 長

### 1. 2チャンネルレコードとの互換性 (Compatibility) があります。

従来の2チャンネル・ステレオレコードを正常な2チャンネルステレオレコードとして再生することができます。

また2チャンネルステレオレコード再生の場合、本機 (CD4-1) のイコライザーを通さずお手持ちのイコライザーを通して再生することもできます。

これらの操作は FUNCTION つまみの切換でワンタッチでできます。

### 2. ディスクリット (Discrete) である。

4つのチャンネルの音が互いにディスクリット (独立) しており、音質も各チャンネルともまったく同等でハイファイであり、CD-4 以外の他の方式にくらべて音質、音場定位感、セパレーション (分離) などにはすぐれた特長をもちています。

### 3. 低歪率、低ノイズ3段直結イコライザー付

イコライザーは3段直結とし低歪率、余裕あるダイナミックレンジを得るとともに、初段と2段目に PNP シリコントランジスターを使用することによりノイズを極限まで下げ S/N 改善をはかっております。

### 4. ノイズキャンセラースイッチ付

CD-4 レコードで高域ノイズが耳ざわりな場合に、ほとんど音質を変化させずノイズをカットします。

### 5. 4チャンネルレーダー付

CD-4 レコードをかけているときに、このレーダーが点灯し、CD-4 レコード再生がひとめでわかるようになっています。

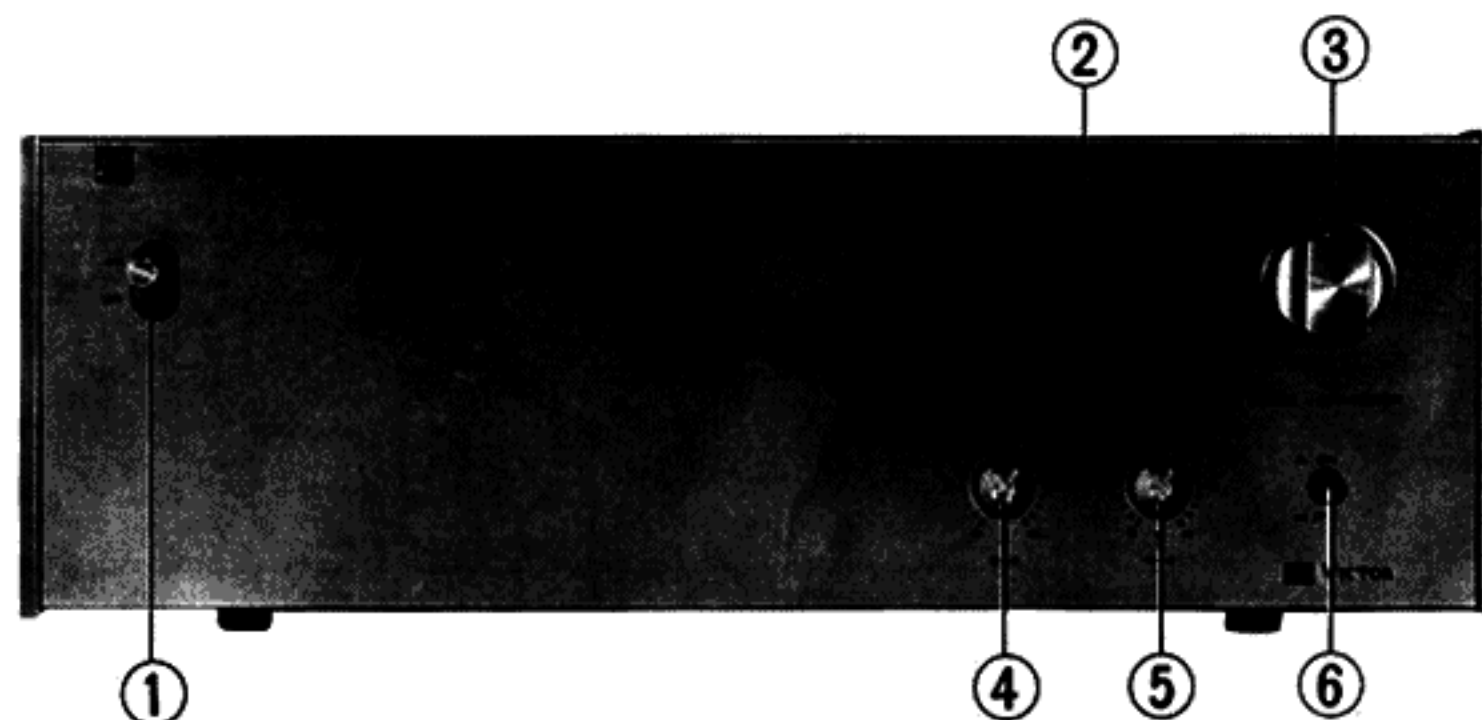
### 6. 操作の簡易性

4チャンネルの操作は複雑だとよくいわれますが、CD-4 方式は完全ディスクリットであり、位相操作などわずらわしい操作は一切不要ですので、ごく簡単な操作で完全な4チャンネル再生をお楽しみいただけます。

## CD4-1 型 規格 内容

型 式	CD-4 システム ディスクディモジュレーター
使 用 半 導 体	トランジスター: 29石 (内2石は電源用) IC : 12 FET : 4 ダイオード : 31 (内3ケは電源用)
周 波 数 特 性	20~16000Hz
定 格 入 力 レ ベ ル	1.5mV
“ 出 力 レ ベ ル	0.3V
入 力 イ ン ピ ー ダ ン ス	100K $\Omega$
出 力 イ ン ピ ー ダ ン ス	5K $\Omega$
セパレーション調整	チャンネル 1 ———— チャンネル 2 間 “ 3 ———— “ 4 間
電 源 電 圧	AC 100V 50, 60Hz
消 費 電 力	7W
ヒ ュ ー ズ 定 格	0.5A (アンペア)
寸 法	高さ 13.8cm, 幅 38cm, 奥行 33.5cm
重 量	6.5 キログラム (ダンボールケースなどは含まない)

## フロントパネル部説明



第 1 図

### ■ 電源スイッチ ①

このレバースイッチを上側に上げると「ON」の状態となって電源が入ります。また下側にたおすと「OFF」の状態になり電源が切れます。

### ■ 4チャンネルレーダー ②

CD-4 レコードをかけた場合にこのレーダーが点灯します。(ただし FUNCTION 位置が「CD-4」になっている場合のみです)

### ■ ファンクション (FUNCTION) 切換スイッチ ③

**DIRECT** : お手持ちの2チャンネルステレオ用カートリッジで従来のステレオレコードを再生する場合。

この場合はお手持ちのアンプのイコライザーを使用して従来の2チャンネルステレオレコードを再生することになります。

**CD-4** : CD-4用カートリッジでCD-4レコードをお聴きになる場合。

**2CH DISC**: CD-4用カートリッジで従来のステレオレコードを再生する場合。

### ■ セパレーション調整 ④、⑤

詳しくは操作・調整のセパレーション調整の項(10頁)を参照してください。

④のボリューム : CH-1, CH-2 (左側前, 後)のセパレーション調整。

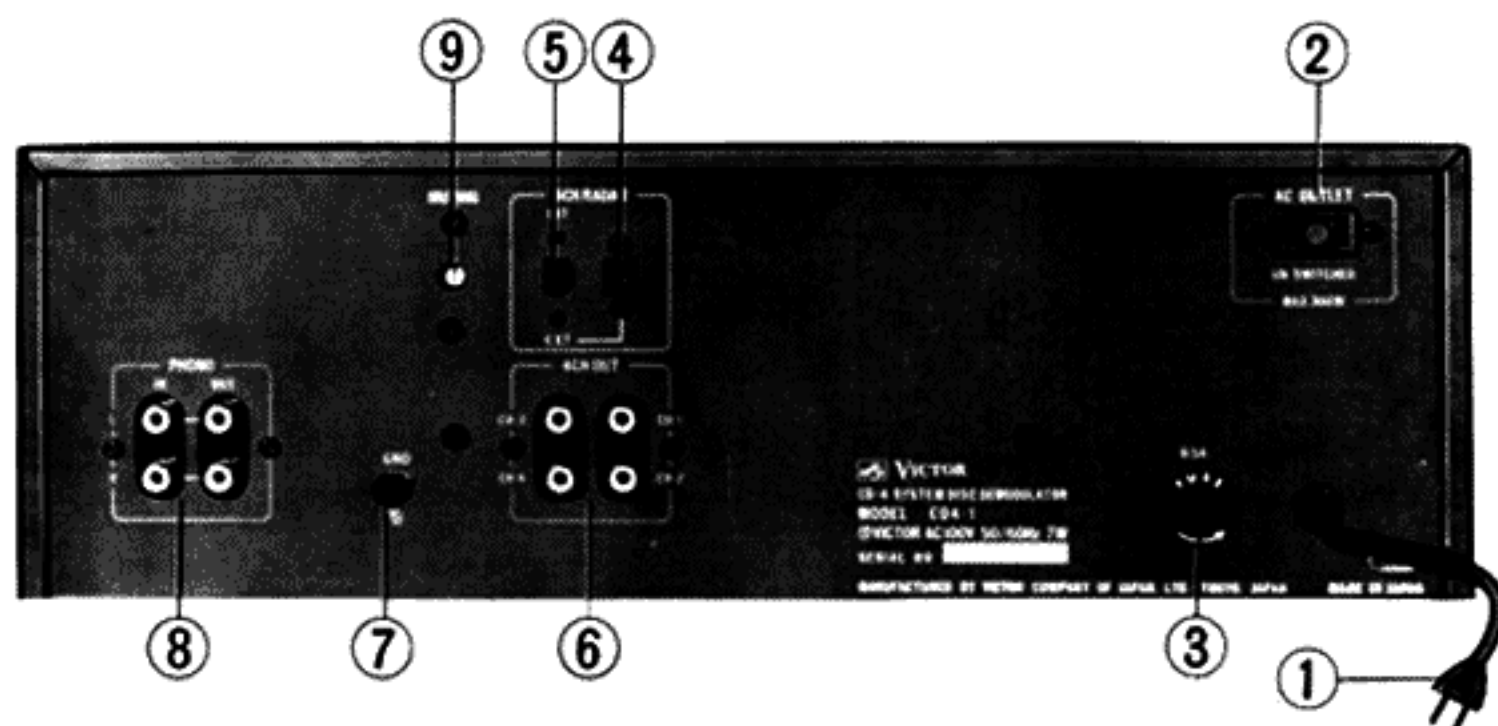
⑤ " : CH-3, CH-4 (右側前, 後)のセパレーション調整。

### ■ ノイズ キャンセラー ⑥

CD-4 レコードで、高域ノイズが耳ざわりになる場合、このノイズキャンセラーを使用します。

このノブを押しますとノイズキャンセラーが「ON」になり高域ノイズがカットされ、もう一度押すとノイズキャンセラーが「OFF」になりもとにもどります。

## 接続端子部（後部パネル部）説明



第 2 図

### ■ AC プラグ ①

お手もとの AC コンセントにさし込んでください。

### ■ 外部電源端子 ②

この外部電源端子には交流の 100V がきています。レコードプレーヤー、またはアンプ、テープレコーダーなどの電源にご使用ください。なおこの電源端子の容量は 300W までです。

また本機 (CD4-1) の電源スイッチによる "ON" "OFF" はできません。

他の電気器具 (特に電熱器等大容量のもの) は使用しないでください。

### ■ ヒューズホルダー ③

この中に 0.5 アンペアのヒューズが入っています。0.5 アンペア以外のヒューズまたは針金などは危険ですから絶対に使用しないでください。

### ■ 4チャンネルレーダー端子 ④

接続例 C (8 ページ参照) で、ステレオ本体側の 4 チャンネルレーダーを点灯させる場合、4 チャンネルレーダー信号はこの端子からとります。

### ■ 4チャンネルレーダー内部、外部切換スイッチ ⑤

スイッチを上側 "INT" の方にしておきますと CD-4 レコードをかけた場合、本機 (CD4-1) の 4 チャンネルレーダーが点灯します。また下側 "EXT" の方にしておくとステレオ本体側の 4 チャンネルレーダーランプ (接続例 C 参照) が点灯し、本機 (CD4-1) のレーダーは点灯しなくなります。

### ■ 4チャンネル出力端子 ⑥

CH-1, CH-2, CH-3, CH-4 の各チャンネルの出力端子です。お手持ちのプリアンプの AUX (補助) 端子や 4CH プリメインアンプの 4CH IN 端子などに接続します。くわしくは接続例を参照してください。なおこの場合添付のシグナルコード (2 本平行線) を使用してください。

茶色	表示	CH-1	
赤色	#	CH-2	の色別けによりご使用になりますと
橙色	#	CH-3	チェックに便利です。
黄色	#	CH-4	

### ■ アース端子 (GND) ⑦

この端子は大地に直接アースしてください。詳しくは使用上の注意の項を参照してください。

### ■ プレーヤー入、出力端子 ⑧

CD-4 用プレーヤーのシグナルコードを "IN" 側に接続します。白色→L側、赤色→R側に接続します。"OUT" 端子はお手持ちのアンプの PHONO 端子に接続します。この場合添付のシグナルコード (赤色、白色) をご使用ください。白色→L側、赤色→R側に使用します。

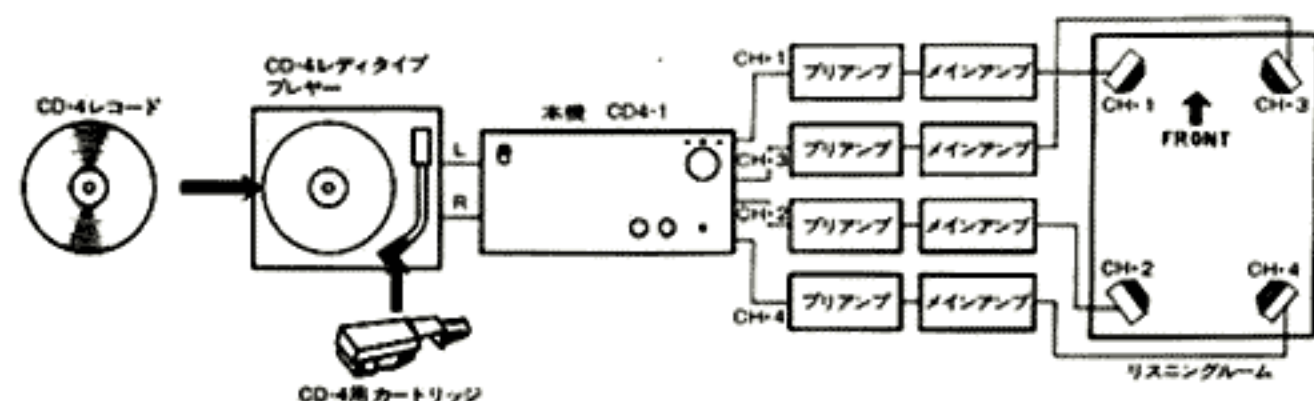
### ■ ミューティング ⑨ ……調整済みですから動かさないでください。

CD-4 レコード をかけた場合以外に 4 チャンネル専用回路が動作しない回路がついており、これはその動作点の調整用つまみです。出荷時最適状態に調整しておりますので動かさないでください。



## 接続例

CD-4 システムの再生系の基本的接続としては下図のようになります。



第 3 図

したがって CD-4 再生には本機 CD-4 の外に CD-4 レコード、CD-4 用カートリッジおよび針、CD-4 レディタイププレーヤー、プリアンプ、メインアンプ4系統、スピーカーバツフル4個が必要となります。

### 1. アンプ系としては大別して次の4通りがあります。

これ以外にお手もちのアンプをご使用になりたい場合は、お買上店またはビクター営業所、出張所、サービスセンター (VSC) などにご相談ください。

#### A. ビクター4チャンネル用コンポーネントアンプを使用する場合

- ① ビクターの4チャンネル時代のプリメインアンプ (プリメインアンプが4系統入っている) MCA-V9, MCA-V7, または MCA-V5 いずれか1台で組合せられます。
- ② 同じく4チャンネル用プリアンプ MCP-V9 (プリアンプが4系統入っている) 1台と、4チャンネル用メインアンプ MCM-V9 (メインアンプが4系統入っている) 1台との組合わせです。

このうち MCA-V7 を使用した例を 例-A (6ページ) に示します。

#### B. ビクターステレオコンポーネントアンプを使用する場合

- ① ステレオプリアンプ2台とステレオメインアンプ2台の組合わせ。
- ② ステレオプリメインアンプ2台での組合わせ。
- ③ ステレオユニバーサルアンプ (レシーバー) 1台とステレオプリメインアンプ1台との組合わせなどがあります。

このうち②の場合で MCA-105 を2台使用した場合の1例を 例-B (7ページ) に示します。

#### C. ビクターシステムセパレートステレオ、Zシリーズ (SSL-Z1, Z2, Z3) の場合

この場合はセパレートステレオ本体の切換スイッチにより4系統のメインアンプをもつようになります。フロント (前側) は本体のプリアンプ (SEA) を使用、リヤ (後側) 用にはリヤ専用コントローラー 4AD-10 を使用すれば CD-4 レコードの再生が出来るようになります。

このうち SSL-Z1, (または Z2) の場合を 例-C (8ページ) に示します。この場合ステレオ本体の SFC についてご注意ください。(「使用上のご注意」の項を参照してください)

#### D. ビクター CD-4 レディタイプ、MCSS シリーズセパレート、モジュラーステレオを使用する場合

CD-4 レディタイプになっている MCSS シリーズとして次の機種があります。SSL-97D, SSL-66D, SSL-87D, SSL-48D, SSL-4500D, MSL-1D, MSL-2D, (SSL-D または MSL-D の型名にもなっている) この場合もステレオ本体の切換スイッチにより4系統のメインアンプをもつようになりますので、フロント (前側)、リヤ (後側) 共に音量、音質のコントロールが出来るビクター4チャンネルコントローラー QAD-15 を使用することにより CD-4 レコード再生ができるようになります。このうち SSL-4500D を使用した例を 例-D (9ページ) に示します。

### 2. プレーヤーとカートリッジの組合わせについて

CD-4 レコード演奏には4チャンネルレディタイプ (プレーヤーに「4 Channel Player」のマークのあるもの) のプレーヤーと、CD-4 用カートリッジおよび針が必要です。

4チャンネルレディタイプのプレーヤーにはカートリッジと針を交換するものと、針だけの交換でよいものがあります。これらは別売として、針のみ 4DT-1X、針、カートリッジ、シュルー式 4MD-1X を用意していますのでご利用ください。したがってプレーヤーと針またはカートリッジの組合わせは次の表のとおりとなります。

4チャンネルレディタイプ・プレーヤー	交換用 CD-4 針又はカートリッジ
SRP-B33M, SRP-B22M, SRP-B11M	4DT-1X (針のみ交換)
SRP-469M, SRP-B50M, SRP-B30bM	4MD-1X
SRP-B20bM	(CD-4用針、カートリッジ、シュルー式交換)
SRP-V7 (ケースなし)	4MD-1X ( " )
SRP-V7B( " )	4DT-1X (針のみ交換)
Zシリーズ、CD-4 レディタイプ MCSS シリーズのセパレート、モジュ ラーステレオ附属プレーヤー	4MD-1X (CD-4用針、カートリッジ、シュルー式交換)

例 A. 4チャンネル用コンポーネントアンプを使用する場合……………これは4チャンネル用プリメインアンプ MCA-V7 を使用した1例です。

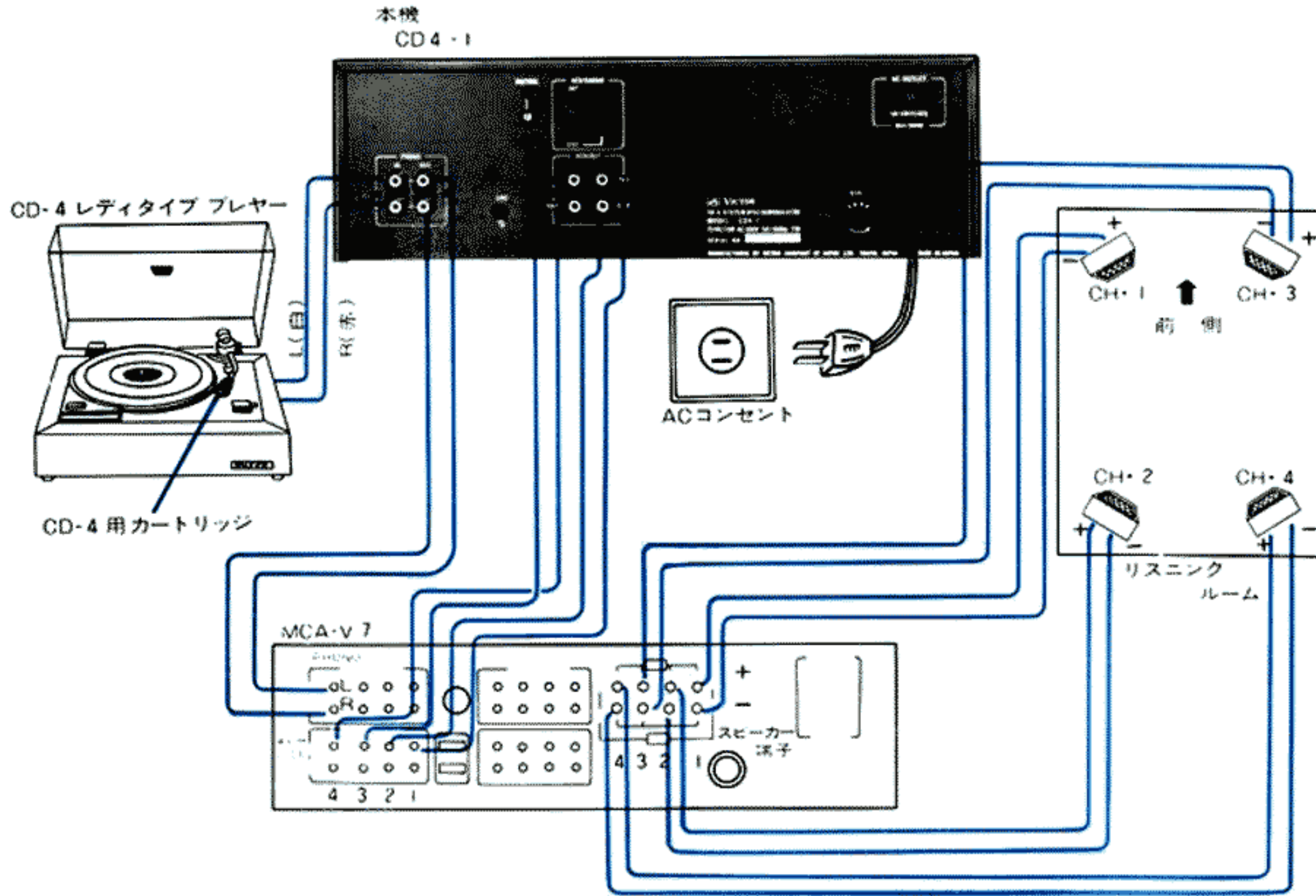
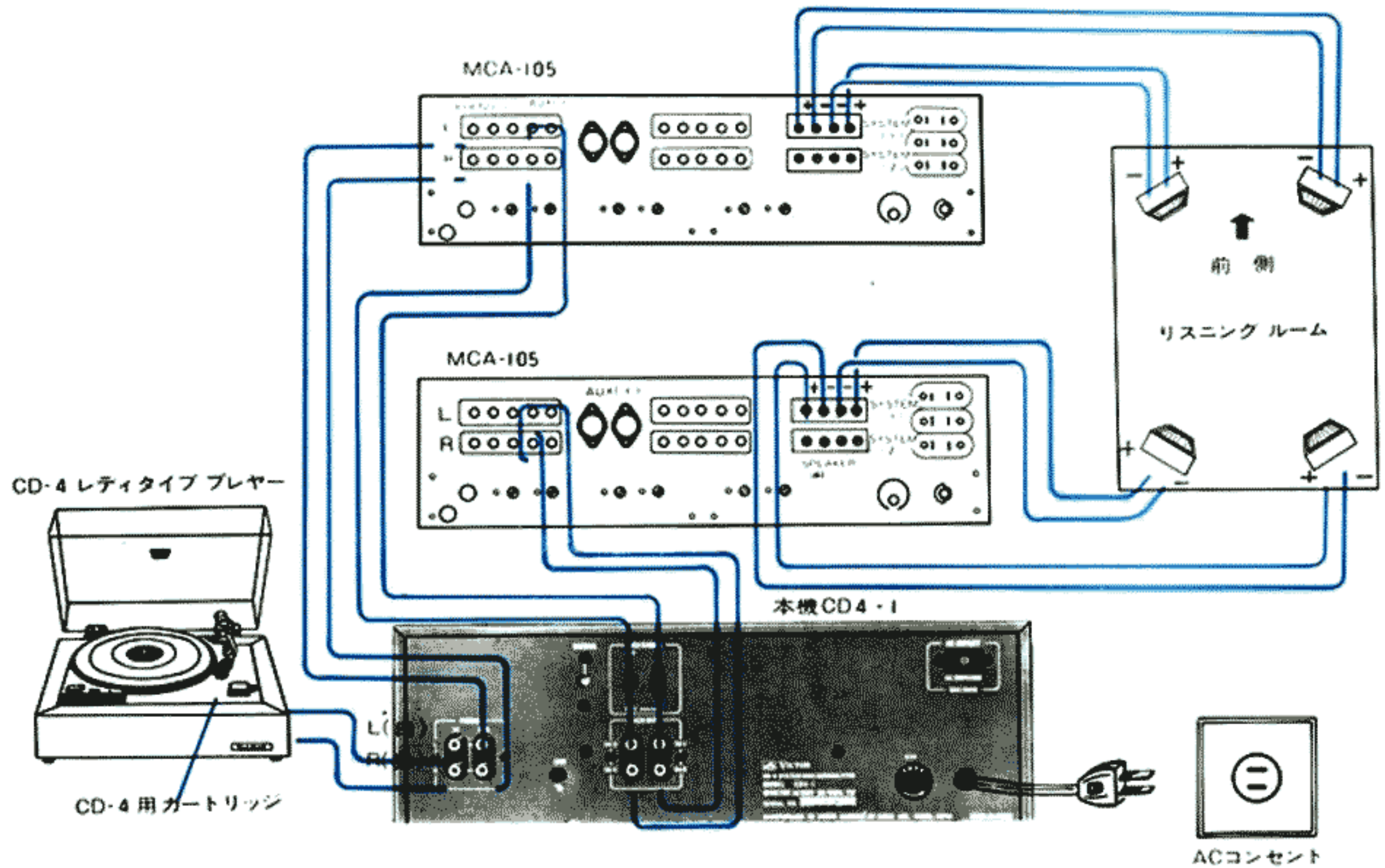


図 4 図



例 B. ステレオコンポーネントアンプを使用する場合……………これはステレオブリメインアンプ MCA-105 を使用した1例です。

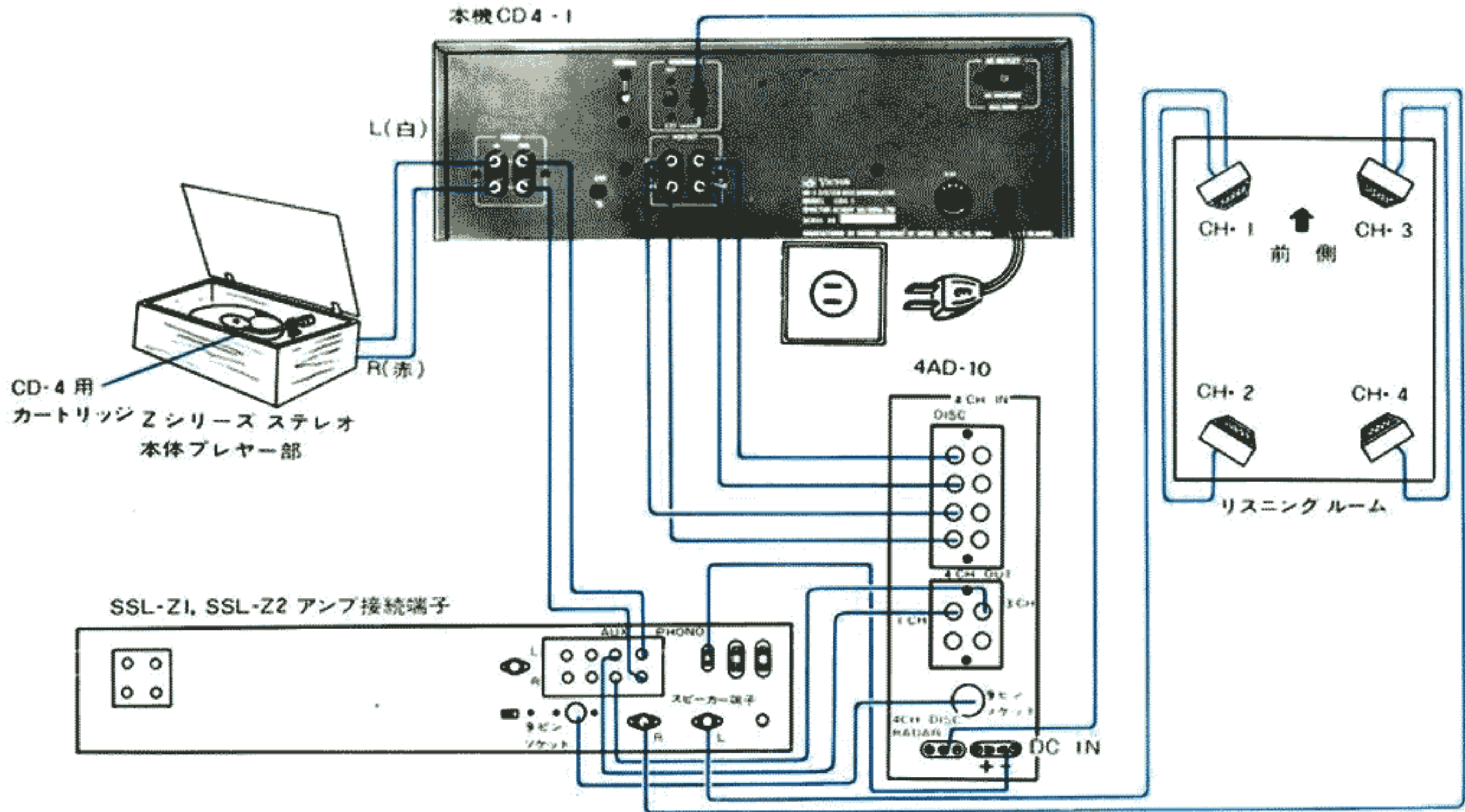


第 5 図

- アンプ系にMCA-105 を使用してみました。このアンプには **AUX(1)**、**AUX(2)** がありますがここでは **AUX(1)** を使うことにしました。
- MCA-105 のスピーカー端子には **SYSTEM(1)**、**SYSTEM(2)** の2系統ありますが、ここでは **SYSTEM(1)** を使用することにしました。



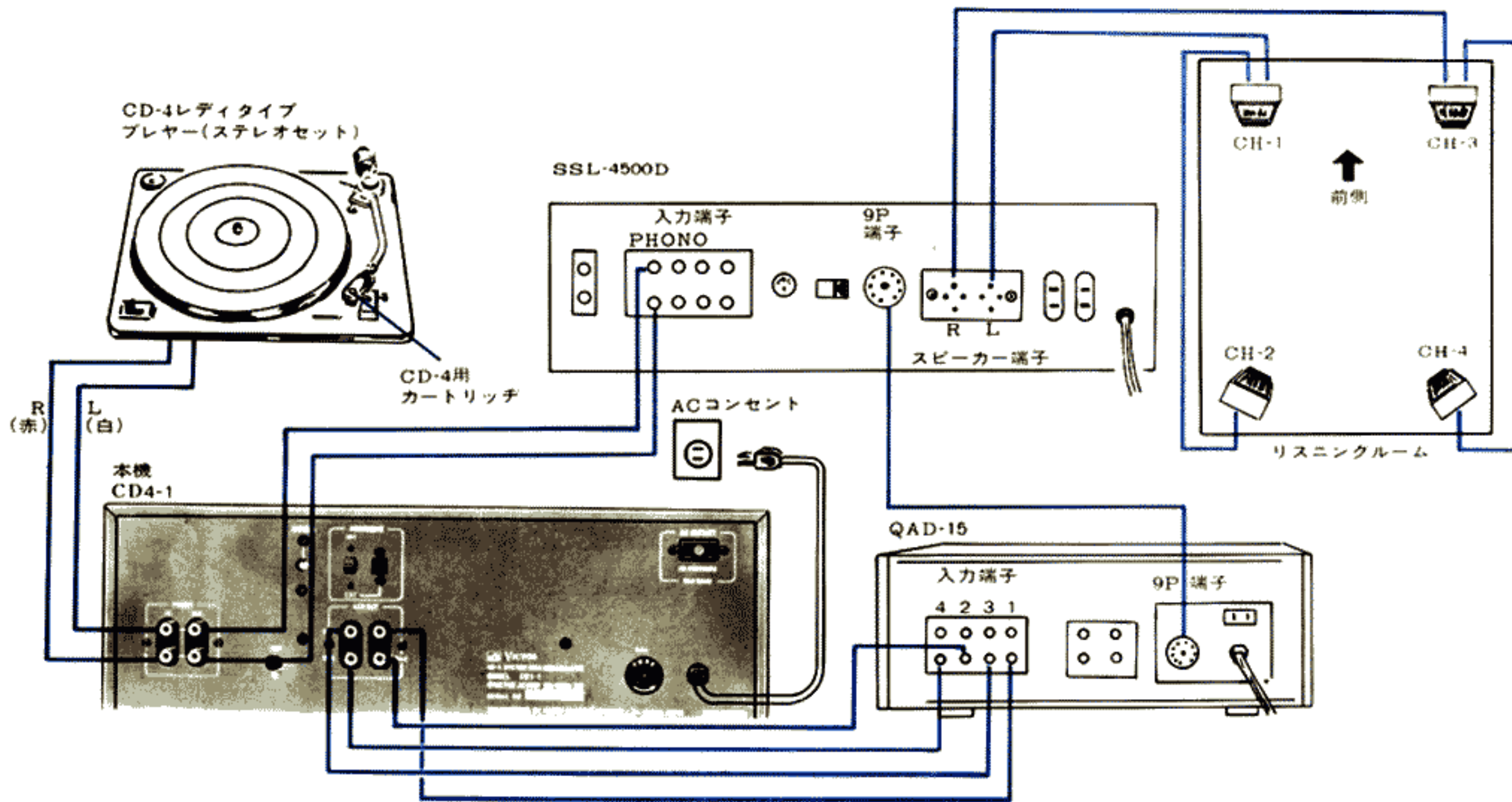
例 C. ビクターシステムセバレート、Zシリーズ (SSL-Z1, Z2, Z3) を使用する場合……………これは SSL-Z1 または SSL-Z2 を使用した例です。



第 6 図

- Zシリーズで4チャンネル再生をおこなうためのアンプ、スピーカーの切替操作、およびスピーカー接続方法については、Zシリーズ本体の取扱説明書をごらんください。
- この接続例ではリヤ側 (CH・2, CH・4) の音量、および音質調整は 4AD-10 でおこなうことになります。
- 4チャンネルレダラーの切替スイッチ (第2図⑤) はこの接続例では "INT" の位置にしています。ステレオ本体の4チャンネルレダラーを点灯させたい場合はこのスイッチを "EXT" に切替えてください。
- SSL-Z3 は端子の配置が本図と異なっていますのでご注意ください。
- ステレオ本体の SFC について「使用上のご注意」の項 (11ページ) を参照してください。

例 D. ビクター CD-4 レディタイプ、MCSS シリーズステレオを使用する場合……………これは SSL-4500D を使用した1例だけ。



第 7 図

• CD-4 レディタイプ MCSS ステレオで、4チャンネル再生をおこなうためのアンプ、スピーカーの切換操作、およびスピーカー接続方法については、ステレオ本体の取扱説明書をごらんください。

## 操作, 調整

CD-4 レコードの性能を十分に発揮していただくために、添付レコードの説明に従って次の①, ②, ③, ④ の操作によって調整してください。

### ① 予備操作

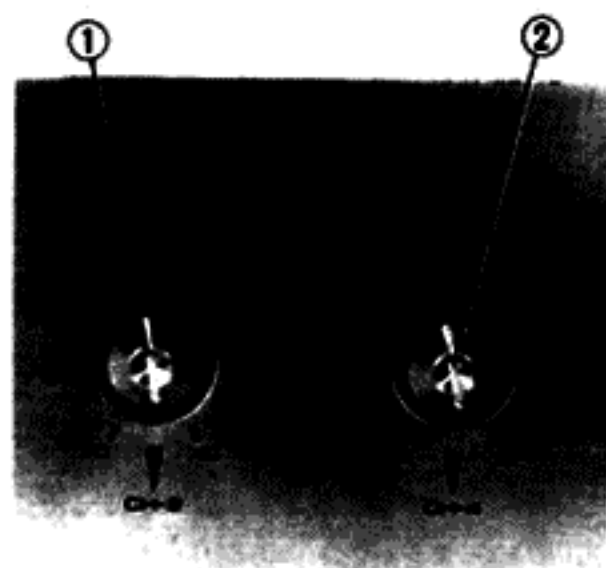
CD-4 レコード、CD-4 用カートリッジ、および針 CD-4 レディタイププレーヤー、アンプ、スピーカーの準備（接続）が出来ましたら次の予備操作をおこなってください。

- (1) 各アンプの切換スイッチなどが適切な位置になっているかどうか確認します。このとき各アンプのボリュームは 2~3 目盛位に上げておきます。
- (2) 本機 CD4-1 の "FUNCTION" 切換スイッチを "CD-4" の位置にします。
- (3) プレーヤー、CD4-1、各アンプの電源スイッチを "ON" にします。
- (4) CD-4 レコードをかけます。
- (5) 各チャンネルのスピーカーから音が出ていることを確認します。

### ② セパレーション調整

一度調整すれば CD-4 カートリッジまたは針を交換するまでは調整の必要はありません。

- (1) フロント（前側 CH-1、CH-3）アンプのボリュームを絞リ、リヤ（後側 CH-2、CH-4）側のみから音が出るようにします。
- (2) 本機に添付している試聴用レコードのセパレーション調整用信号（ワーブルトーン）の録所をかけます。
- (3) 次にリヤアンプのボリュームまたはバランスを利用して、うしろ左側（CH-2）のみを鳴らします。そして本機のセパレーションボリューム①（第8図）をまわして音量が最小になるように調整します。



第 8 図

- (4) 同じようにして今度はうしろ右側（CH-4）のみを鳴らし本機のセパレーションボリューム②（第8図）をまわして音量が最小になるように調整します。

これでセパレーション調整は終了しました。リアアンプのバランスをもとにもどし、フロントアンプのボリュームをあげてください。あなたは各チャンネルにそれぞれ分離された、CD-4 の音場につつまれることでしょう。

### ③ 音量バランスの調整

次に各チャンネルの音量を添付レコードの説明により CH 1、CH 2、CH-3、CH-4 の順で各チャンネルの音量をアンプの音量つまみで合わせて下さい。これで調整は終了しました。

### ④ 従来の2チャンネルステレオレコードをお聴きになる場合

(その1)……お手持ちの2チャンネルステレオ用カートリッジを使用する場合。（接続例A およびBではフロント側のみステレオになり、リア側の音は出ません）

- (1) お手持ちのフロント用アンプのセレクトスイッチを "PHONO" 位置にします。
- (2) CD4-1 の "FUNCTION" スイッチを "DIRECT" の位置にします。
- (3) プレーヤーとフロント用アンプの電源スイッチを "ON" にします。（CD4-1 とリヤアンプは電源を切った状態でもよい）
- (4) あとはお手持ちのフロント用アンプで従来の2チャンネルステレオとまったくおなじ操作をおこなうようにします。（例Dでは QAD-15 のセレクトスイッチを "2CH" の方にたおしておきます）

**ご注意** 2チャンネルステレオ用カートリッジで CD-4 レコードをかけますとレコードをいためることとなりますので CD-4 レコードには絶対2チャンネルステレオカートリッジを使用しないでください。

### (その2)…… CD-4 用カートリッジで従来のステレオレコードをかける場合

- (1) 各アンプのセレクトスイッチなどは CD-4 レコード演奏のときとおなじように予備操作をおこないます。
- (2) CD4-1 の "FUNCTION" スイッチを "2CH-DISC" の位置にします。
- (3) 2チャンネル、ステレオレコードをかけます。
- (4) この場合は、前後のスピーカーからおなじ音が出ます。即ち、CH・1（前左）と CH・2（後左）はおなじ音で、CH・3（前右）と CH・4（後右）がおなじ音になります。お好みによって前だけ音を出すとか、後の音を少し出すときは、フロントアンプおよびリヤアンプのそれぞれのボリュームで調整してください。（例Dでは QAD-15 のセレクトスイッチを "4CH" にたおしておきます）



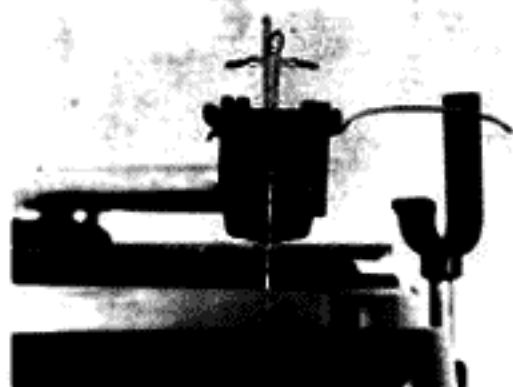
## 使用上のご注意

### 1. セパレーション調整について

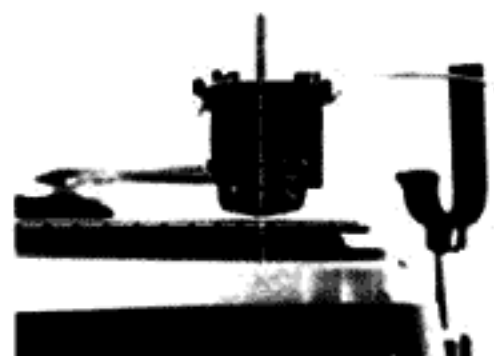
セパレーション調整はご使用になる CD-4 用カートリッジ (針を含む) に合わせておこなうものです。ですから一度調整すれば、カートリッジまたは針を交換するまでは調整の必要はありませんので、本機のセパレーション調整ボリューム (第8図) は動かさないようにしてください。

### 2. カートリッジの交換について

CD-4 用カートリッジに交換する場合 (第9図)(a) のように傾いていますと音質がそこなわれることがありますので、(第9図)(b) のようにレコード面に対し垂直になるように正しくとりつけてください。



第9図(a)



第9図(b)

### 3. テレビからの妨害について

テレビをつけたままで CD-4 再生をおこなう場合に、テレビと CD-4 用プレーヤーの距離が短いと CD-4 再生時に妨害音が出る場合があります。したがって CD-4 演奏時はテレビを消しておくか、どうしてもテレビをつけておく場合はテレビと CD-4 プレーヤーの距離を充分 (普通 50cm~1m以上) はなしてください。

### 4. SFC 回路組込みセット (SSL-Z1, Z2, Z3) の SFC 切換スイッチについて

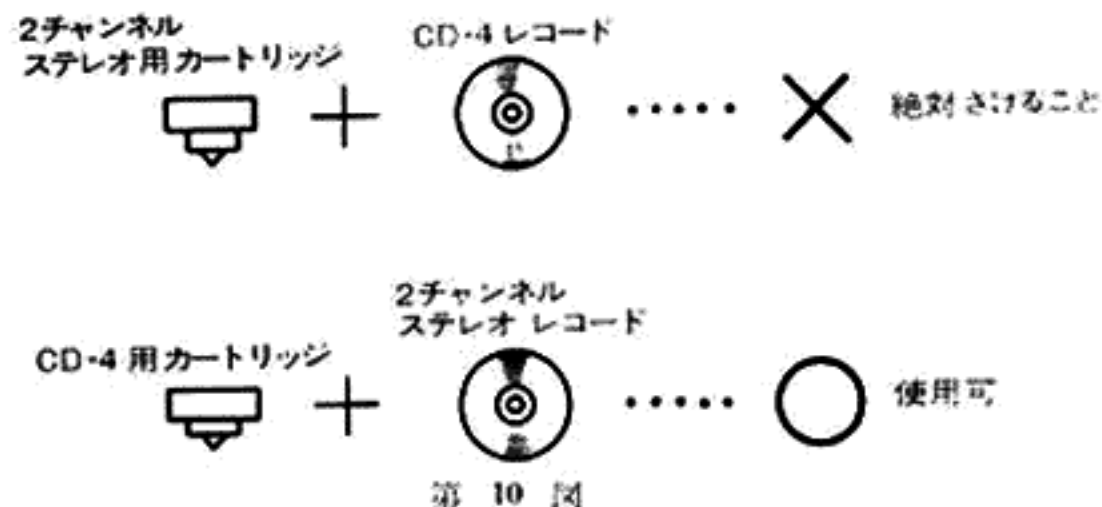
接続例-C の場合で、CD4-1 で2チャンネルステレオレコード演奏をおこない、SFC 効果を出したい場合はこの SFC 切換スイッチを「SFC」にします。この場合、CD4-1 のファンクションスイッチが「DIRECT」または「2CH・DISC」いずれの場合にも SFC 効果を出すことができます。

また CD-4 レコード演奏の場合は CD4-1 のファンクションスイッチを「CD-4」にし、SFC 切換スイッチを「NORMAL」にしてください。「SFC」にしますと CD-4 本来の再生ができなくなりますのでご注意ください。

### 5. レコードについて

CD-4 レコードではとくにこみやはこりが音質のさまたげになることがあります。したがって使用前、使用後はかならず添付のクリーナーできれいにして保管してください。クリーナーにはスプレー式等溶剤利用のものを使用しないで下さい。またレコード盤の水洗いはさけてください。(雑音が大きくなることがあります)

CD-4 用カートリッジで2チャンネルステレオ用レコードをかけてもレコード、カートリッジ共に寿命の問題はありませんが、2チャンネルステレオカートリッジでの CD-4 レコードの演奏は、CD-4 レコードをいためますので絶対避けてください。



第10図

### 6. アース端子の大地アースについて

- ① 建物によっては電灯線のコンセントのところにアース端子がありますので、ビニール線でしっかりとめます。まちがってビニール線をコンセントにさし込まぬようご注意ください。
- ② 電灯線のところにアース端子がない場合は10~20芯のビニール線の先端を 50~70cm 位深にして水道管の蛇口にさきつけ、ビニールテープでしっかりとめます。
- ③ ビニール管を使用している水道管ではこの効果がありません。そのような場合は地面を 50cm 位掘り、10~20 芯のビニール線の先端を 50cm 位深にして埋めます。

(ご注意) ガス管にはアース線を絶対に接続しないでください。

### 7. ハム(ブーンという音)が大きい場合

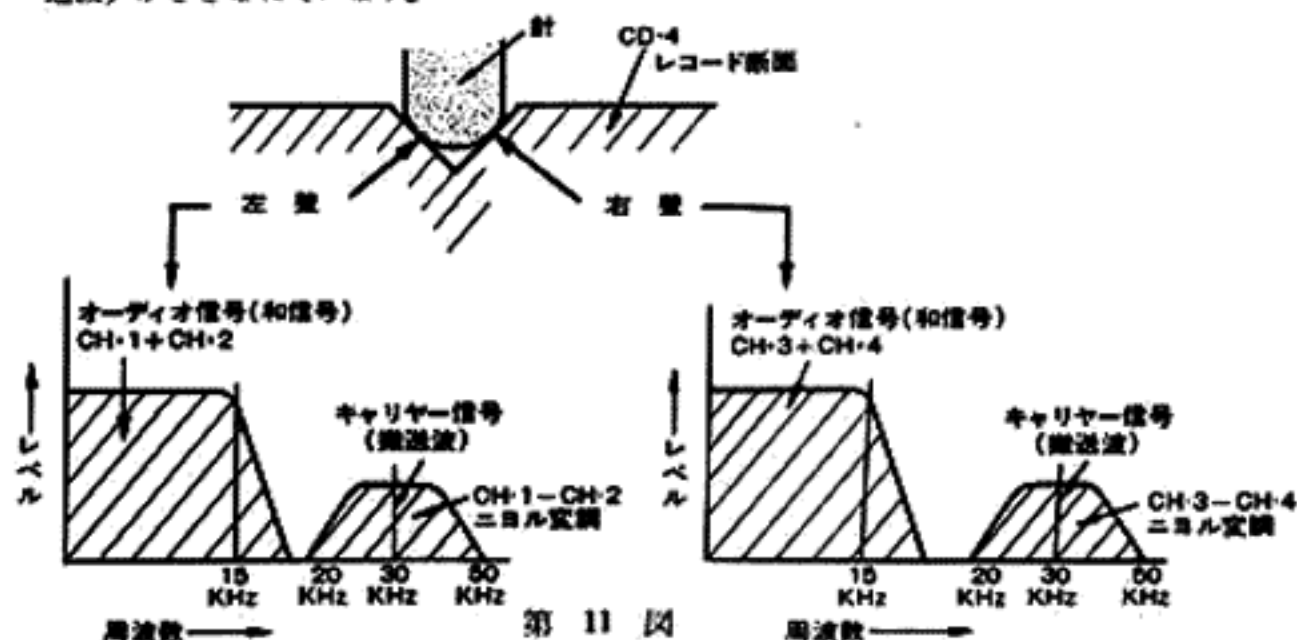
プレーヤー、CD4-1、各アンプの電源プラグの方向でハム音が大きくなる場合があります。この場合には各セットの電源プラグをハム音の小さくなる方向にさしかえてください。



## CD-4 システムについて

従来のレコードと同じ一本の溝からどうして4つの互いに独立した音を取り出すことができるのか簡単にご説明いたします。

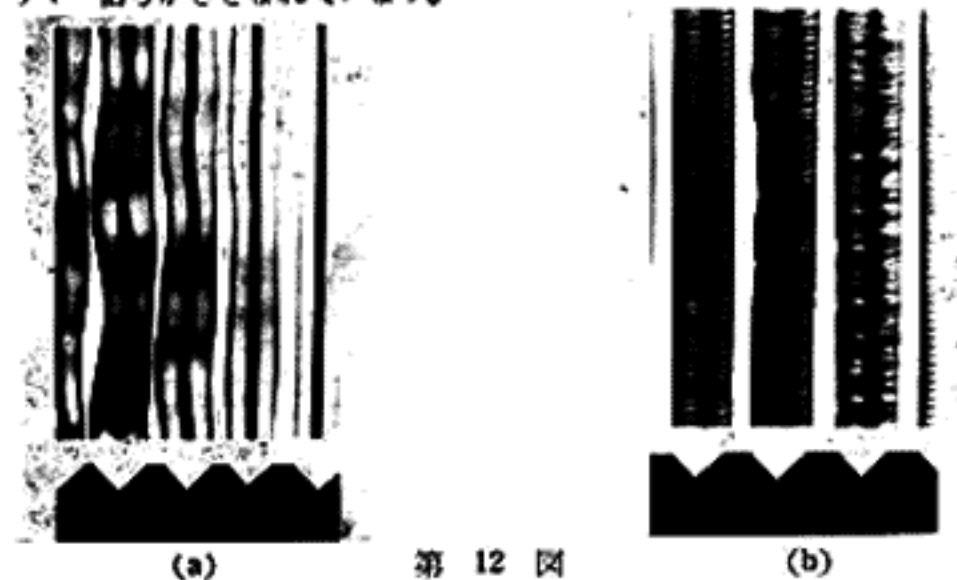
まずレコードですが(第11図)のようにレコードの断面をみますと従来のステレオレコードのように45-45方式になっていますが、音みぞの左壁にはCH・1+CH・2の2つのチャンネルの加えられたオーディオ信号(和信号)と、CH・1-CH・2の差のオーディオ信号(差信号)でFM方式とPM方式(FM:周波数変調、PM:位相変調)で変調されたキャリア信号(搬送波)がきざまれています。



第11図

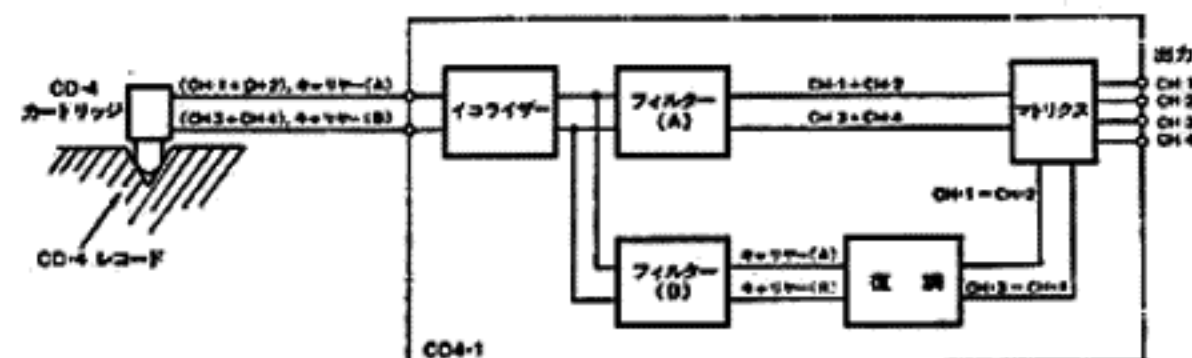
この2つの信号のうち、キャリア信号は人の耳にはきこえない、30kHzを中心に変調されることによって20kHz~50kHzまで変化しています。

同じように右壁にはCH・3+CH・4のオーディオ信号とCH・3-CH・4の差の信号で変調されたキャリア信号がきざまれています。



第12図

(第12図)(a)と(第12図)(b)を見くらべてください。(第12図)(a)の方が従来の2チャンネルステレオレコードの音みぞであり、(第12図)(b)がCD-4レコードの音みぞです。CD-4レコードの方が細かくきざまれていることがおわかりのことと思います。このこまかくきざまれた波がCD-4独自のキャリア信号(搬送波)なのです。つぎにこのCD-4レコードからどのようにして4つの独立した音が拾い出せるのか、簡単なブロックダイアグラムでご説明しますと、



第13図

まずレコードの左溝からCD-4用カートリッジによつてCH・1+CH・2の和信号とキャリア信号(CH・1-CH・2の差信号で変調されている)がピックアップされ、本機CD4-1に入ります。するとイコライザー(RIAAカーブ)を通りそのままフィルターA、フィルターBに入ります。このフィルターによりそれぞれCH・1+CH・2の和信号と変調されたキャリア信号に別けられます。和信号はそのままマトリクス回路に入りますが、変調されたキャリア信号は復調回路を通り、変調波であったCH・1-CH・2の差信号になってマトリクス回路に入ります。

ここでマトリクス回路により加、減算がなされるわけです。すなわち、

$$\text{加算: } (CH \cdot 1 + CH \cdot 2) + (CH \cdot 1 - CH \cdot 2) = 2(CH \cdot 1)$$

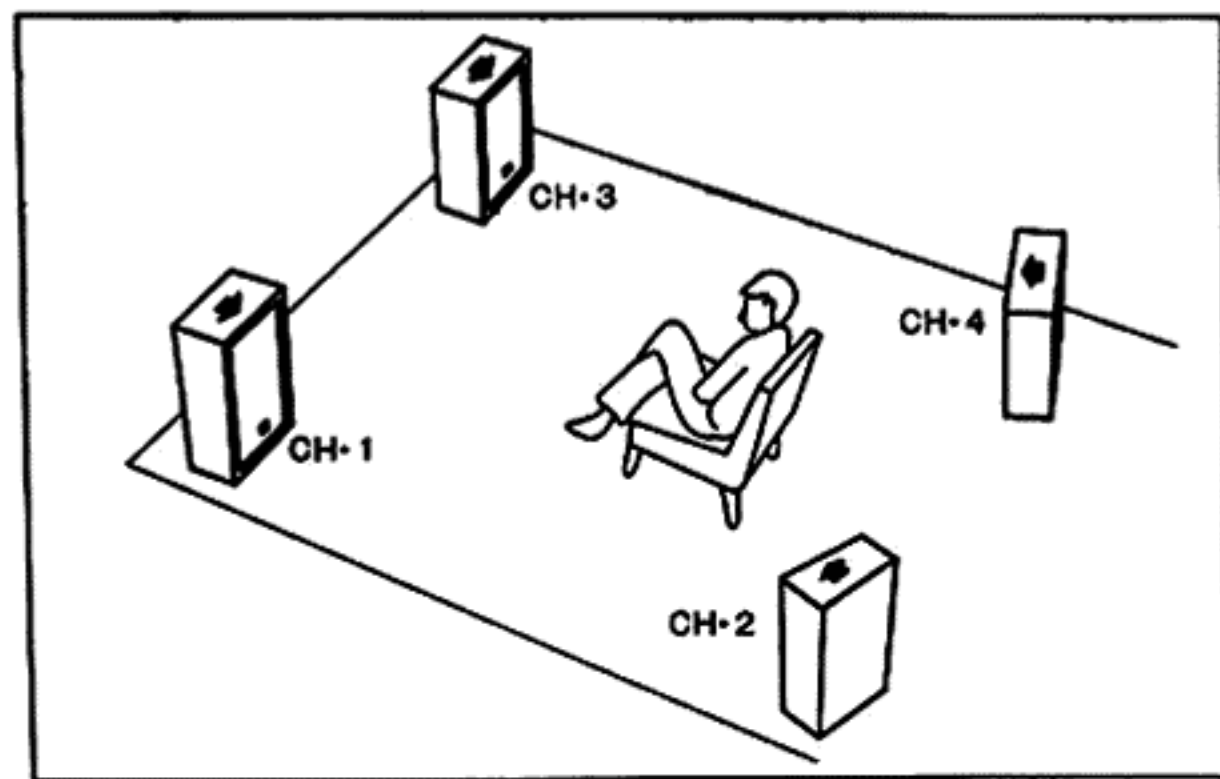
$$\text{減算: } (CH \cdot 1 + CH \cdot 2) - (CH \cdot 1 - CH \cdot 2) = 2(CH \cdot 2)$$

これでCH・1とCH・2が出てきました。

同様にしてレコードの右のみぞからピックアップされた信号はCH・3とCH・4が出てくることになります。これで1つのレコード溝から4つのチャンネルの信号が完全に独立した音でとり出せることがおわかりいただけのことと思います。

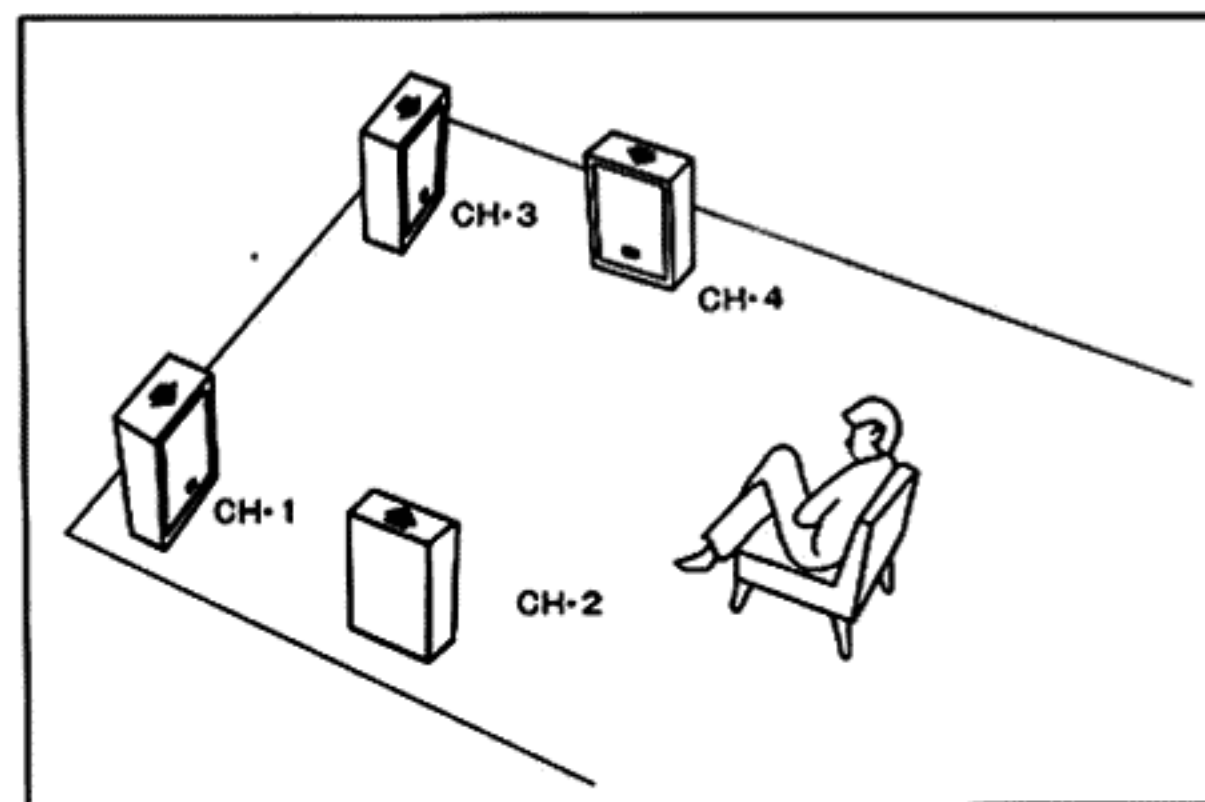
## スピーカーバツフルの配置について

4チャンネルの再生のためには4台のスピーカーバツフルが必要ですが、4チャンネル再生の効果を最大に生かすために、いろいろなスピーカーバツフルの配置が考えられます。前面に4つのチャンネルのバツフルを並べる4-0方式、前面に2つのチャンネル、後面に2つのチャンネルを配置する2-2方式、また前面に3つのチャンネルと後面に1つのチャンネルを配置する3-1方式等がありますが、現在では2-2方式が主流となっていますので、ここでは最も標準的な2-2SD方式とその変形としてみられる2-2FT方式をご紹介します。



第14図 (a) 2-2SD方式

これが最も標準的配置といわれる2-2SD方式でリスナーは4方からの音につつまれます。したがってポピュラー音楽やホールの実況録音等、またムード音楽などには適しているといえます。また録音によって音がぐるぐる廻るような4チャンネル独得の“効果音”のものにはこの配置が良いでしょう。



第14図 (b) 2-2FT方式

次にこの変形として考えられるのが2-2FT方式でこれはステージの動きを客席で観賞するといった感じになります。

クラシック音楽などには最適と考えられます。

この外に2-2方式のリヤ用スピーカーバツフルを後の壁に向けて音を反射させるとか、スピーカーバツフルの高さを調整するとか、いろいろご自分でお試しになってください。またスピーカーの種類もリヤ用に無指向性スピーカー (GB-1D, GB-2, BLA-5 など) を使ってみるのも良い効果が出せる方法の一つです。

## おすすめしたいビクター製品

CD-4用カートリッジ、針、シェル式セット  
4MD-1X



- ・超高域再生 (10~60kHz)
- ・コンプライアンス大で軽針圧
- ・ピアノ線による低IM歪
- ・ヘッドシェルはインパクトプレス加工で軽量で堅固な無共振型

CD-4用針 4DT-1X



- ・仕様は 4MD-1X の針と同様です。



CD-4 レディタイププレーヤー  
SRP-B50M

- ・DC サーボモーター
- ・ベルトドライブ方式
- ・S/N 60dB 以上
- ・ストロボ装置による速度微調整付



CD-4 レディタイプ プレーヤー  
SRP-B33M

- ・6極アウターローターヒステリシス シンクロナスモーター。
- ・特殊ゴム製アイソレーターによるハウリング防止。
- ・TH (トレーシングホールド) 方式による軽針圧動作時のトレーシング特性の安定化。



CD-4 レディタイプ プレーヤー  
SRP-B22M

- ・軽量パイプアーム。
- ・特殊ゴム製アイソレーターによるハウリング防止。
- ・TH (トレーシングホールド方式) による軽針圧動作時のトレーシング特性の安定化。



プリメインアンプ  
MCA-V9

- ・完全コンプリ、OCL 方式で低歪率
- ・4CH、2CH 両用 (BLT 方式)
- ・SFC 回路内蔵
- ・4系統トーンコントロール付
- ・4CH 大型 VU メーター付



プリアンプ  
MCP-V9

- ・3段直結 NF イコライザー
- ・トーンコントロール (4系統) は中心周波数切換型
- ・SFC 回路内蔵
- ・4CH 大型 VU メーター付
- ・4CH リモートコントロール端子付



メインアンプ  
MCM-V9

- ・完全コンプリ、OCL 方式で低歪率
- ・4CH、2CH 両用 (BTL 方式採用)
- ・実効出力 4CH : 25W×4  
2CH : 55W×2 の大出力



プリメインアンプ  
MCA-V7

- ・4CH、2CH 両用 (BTL 方式採用)
- ・CD-4 入力端子付
- ・SFC 回路内蔵
- ・4系統のトーンコントロール付
- ・4CH システム用ヘッドホン端子付
- ・4CH VU メーター付



プリメインアンプ  
MCA-V5

- ・4CH、2CH 両用 (BTL 方式採用)
- ・4CH AUX 端子付
- ・SFC 回路内蔵
- ・4系統のトーンコントロール付
- ・4CH システム用ヘッドホン端子付

---

---

**MANUFACTURED BY VICTOR COMPANY OF JAPAN LTD. TOKYO JAPAN**

**E30630-445A**